

第1回 町民ワークショップまとめ

1. ワークショップの目的

- 次期計画としての「多古町総合計画」「多古町総合戦略」の検討・策定にあたって、まちづくりに参加する町民の皆さんに考えやアイデア等を発言していただく機会として、また、まちづくりに関心のある人同士の交流の機会として開催しました。
- 皆さんからいただいた意見・アイデア等は、計画策定の参考資料とさせていただくとともに、皆さんには、この機会を通じて多古町の現在と未来について考え、町民としての郷土愛や誇り、また、まちづくりへの関心をさらに高めていただくために開催しました。

2. ワークショップの概要

実施日時：令和6年10月2日（水）17：30～19：30

実施方法：多古町民や高校生、職員に集まっておいただき、各4～6人でチーム分けし、多古町の魅力や課題について意見を出し合い、KJ法※によりまとめていただきました。

※KJ法：カードに書き出した意見や情報などに対し、グループ分けとタイトルづけを行い、関連性を見いだすことで、意見や情報をまとめる手法。

3. ワークショップの手法

〈クイズ「数値目標」〉

1. 予測設問A（社会増減数）、予測設問B（合計特殊出生率）について個人で予想する。
2. 個人で予想した結果をチーム内で共有し、「予想結果シート」に記入する。
3. 各チームで答え合わせを行う。

〈テーマ：総合戦略で示す”数値目標の実現“について考えよう〉

1. 各チームに振り分けられたKPI（数値目標）からチームで検討するKPIを2つ選択する。
2. KPI（数値目標）について目標を達成するために、また、目標を伸ばしていくために必要だと思うこと、取り組んだ方がいいことを考える。
3. 各チームでワークショップの成果を発表する。

4. ワークショップのまとめ

クイズでは設問A・Bともに正解よりも低い数値で回答したチームがほとんどで、町民が考えているよりも各数値は改善していますが、町民が実感していない状況となっています。また、そういった広報やPRが足りていないことが考えられます。

今回のワークショップでは、KPIの達成に向けて各チームから様々なアイデアが出ました。複数のKPI達成において「広報・PRの強化」が必要だという意見が挙がっています。また、婚姻数やバスの利用者数、道の駅多古あじさい館の売上高などでは、町の魅力UPに向けて、商業施設の拡充や、町民や多古町を訪れる人が、体験したり集まれるような場づくりを求める意見が出ました。

クイズ「数値目標」

予測設問 A 社会増減数（転入者数－転出者数）

予測課題 A

◆令和 5 年度の社会増減数は幾つだと予想しますか

◆併せて、そう予測する理由も考えてみましょう。

正解：令和 5 年度の社会増減数は＋4 人

各チーム の回答

A チーム	記入回答	－25 人
個人回答	●	－20 人 ●－24 人 ●－21 人 ●－20 人 ●－40 人 ●－30 人
B チーム	記入回答	－20 人
個人回答	●	－15 人 ●－20 人 ●－20 人 ●－15 人 ●－40 人 ●－10 人
C チーム	記入回答	－40 人
個人回答	●	－35 人 ●－43 人 ●－10 人 ●±0 人 ●－12 人
D チーム	記入回答	－15 人
個人回答	●	－30 人 ●－15 人 ●－10 人 ●－10 人 ●－25 人 ●＋10
E チーム	記入回答	－50 人
個人回答	●	－15 人 ●－150 人 ●－12 人 ●－20 人

予測設問 B 合計特殊出生率（15 歳～49 歳女性の年齢別出生数の合計）

予測課題 B

◆令和 5 年度の合計特殊出生率は幾つだと予想しますか

◆併せて、そう予測する理由も考えてみましょう。

正解：令和 5 年度の合計特殊出生率は 1.12

各チーム の回答

A チーム	記入回答	0.90
個人回答	●	0.8 ●0.94 ●0.90 ●0.95 ●0.94 ●1.08
B チーム	記入回答	0.90
個人回答	●	0.95 ●0.94 ●0.98 ●0.95 ●0.97 ●1.00
C チーム	記入回答	1.2
個人回答	●	1.05 ●0.85 ●1.12 ●0.95 ●0.89 ●1.03 ●1.7
D チーム	記入回答	1.00
個人回答	●	0.90 ●0.90 ●1.25 ●1.5 ●0.95 ●1.00
E チーム	記入回答	1.00
個人回答	●	1.01 ●0.94 ●1.04 ●1.12

グループA

No.10 第3子出生数

①補助金・費用軽減

- ・収入が増加していないのに子どもが増えると支出が増えてしまう→お金の面を考えてしまう。
- ・子育てに係る費用の負担大・教育にかかる費用が増えた
- ・固定費の補助・現物支給・お金の補助だけでなく、費用の軽減
- ・パパの収入を増やしてやれ

②町独自の政策

- ・公園の整備

③その他

- ・1人目、2人目を預ける場所→ママが働ける
- ・子どもを安心して預けることができる場所を増やす
- ・相談先を増やす 気軽に話せる場所
- ・通学負担の軽減

重要

お金
共働きできる環境
環境整備と支援の拡充

No.7 移住相談件数

①PRの強化

- ・TVでの周知（魅力発信）・相談先の周知・空き物件の情報
- ・田園風景や新規就農者&企業支援をPR・HPを見やすくする
- ・多古町内の地区の特色をアピール・移住者向けHPの充実
- ・多古町の自然の豊かさや多古町の行っている活動を紹介する。
- ・LINE等チャットで気軽に相談できるツール。・口コミを良くする
- ・情報発信、メディア、SNSで多古町の認知を上げる
- ・多古の良い部分（子育て支援、医療費支援、給食費無償化）

②移住の利点

- ・移住したらいいことがある（お金がもらえる、住む場所の候補を挙げる）

③その他

- ・実際に移住した人の感想を聞く機会をつくる
- ・セミリタイア世代の住居の充実
- ・セミリタイア世代と子育て世代の戦略を分ける
- ・3つのゼロ、リモートワークの推進・窓口の改善
- ・移住コーディネーターとの連絡をより簡単にできるように

重要

情報発信 行政の取組

グループ B

No.3 企業・創業の相談数

①HP での案内拡充

- ・仲間を集める HP を町がつくる・HP などて起業・創業相談の案内をする
- ・相談窓口の周知・役場 HP に項目を
- ・相談窓口がどこか知られていない・窓口はもっとアピール
- ・今、多古町にない事業をどこかに載せる

②学校での周知

- ・多古中、多古高で実際に起業・創業した人に講演会を開いてもらう。
- ・学校などでセミナーを開く・相談先を中学校で教える

③その他

- ・多古町のワクワクな未来図をどんどん出す
- ・サラリーマンよりも自営の方が楽しいぞというようなインフルエンサーを仕立て上げる・似た規模状況の自治体の起業・創業事例を集める
- ・町で起業等をするにあたっての補助金制度の充実 ※転入する事業者への助成金など

重要

- 相談窓口がどこか知られていないので、相談窓口の周知
- HP を使って起業仲間を集めたり、起業・創業に関する案内をする
- 学校などで起業・創業に関する講演会を開いたり、紹介冊子を作る
- 補助金制度を充実させる

No.5 道の駅多古の売上高

- ・高校生が開発した商品を販売する ※これまでよりも頻度を増やす
- ・映え商品の開発・あじさいだけでなく、四季を通じた特徴を作る
- ・勉強するスペースが欲しい・自然の景観を活かした夜間開始のイベント
- ・入浴施設を作る・体験（コト）をつくる
- ・ピクニックグッズでも売ってみる・子どもが遊べる場所を室内に作る
- ・犬の道具を売る
- ・オーガニックビレッジ宣言もしている多古町なので、今後の取扱商品をオーガニックのみにする
- ・米、野菜、果物、加工品も多古町で作っているものを増やす
- ・秋になると登場する安いのにあんなにも美味しい焼き芋を広める
- ・施設の拡大をし、シェアキッチンやレンタルスペースを設けたり、店舗を持っていない方が独自の商品
を売れるブースを作る。

重要

道の駅併設の拠点整備

グループ C

No.2 6次産業化・ブランド化特産品数

- ・ ひまわりで油を作る・米から日本酒作る・お客さんからの注文野菜
- ・ 多古高校の園芸科で作られた野菜などを使った料理
- ・ ムスリムに向けてハラール認証を取った作物
- ・ 大企業の誘致・SNS の利用
- ・ 大企業の誘致 交通の整備（高速道路等）
- ・ 農業体験と民泊を組み合わせた取組
- ・ 野菜の収穫体験・レンタル農業・宿
- ・ そばを作付け、収穫、販売
- ・ 6次産業の開発に町民を参加させるワークショップ等
- ・ 多古で有名ではないものを新しく盛り上げる（カレースタンプラリーみたいな）

重要

休耕田等を利用して農業体験を実施
外国の方（宗教）にも対応した新しい作物の生産
参加型のイベントで6次産業に関心を持ってもらう
流通や販路拡大に向けた取組

No.12 65～74 歳の就業率

- ・ 人材バンク
- ・ シルバー人材等の PR・活用
- ・ 保育士・ベビーシッター
- ・ レンタルジバー（おじいさん・おばあさん）
- ・ ボランティア活動
- ・ 様々な職種にトライ
- ・ 就業に向けた講座
- ・ 働ける体力を維持するための健康教室の実施
- ・ 人と関わる（外国人・子ども）認知症予防
- ・ 高齢者が理想を語る会をやる
- ・ シルバー人材センターの活用と拡大
- ・ シルバー人材センターの活動動機の公表（PR）

重要

シルバー人材センターの利用拡大・PR
短時間勤務の仕事を受けられる新しい仕組みを作る
就業に向けて、色々な事にチャレンジできる場の創出

グループ D

No. 4 観光客入込数

- ・ 田んぼでのどろんこ相撲
- ・ 娯楽体験（VR、カラオケ）できるところ
- ・ VR で多古体験（東京とかで）
- ・ 大型犬ドッグラン Cafe 付き
- ・ 外国人が泊まる安い宿
- ・ 自然を活かしたアクティビティの拡充（キャンプ）
- ・ 長期的な農業体験→体験すれば家に米が届く
- ・ X（旧 twitter）、TikTok での PR たまこを出す
- ・ 地元野菜を楽しめるところ（収穫して、食べられる）
- ・ キャンプ、ゴルフ、農業体験

重要

外国人観光客

→ 安い宿、目に留まるサイト、家族で楽しめるイベント

都心観光客

→ 自然を活かしたアクティビティ、地元野菜

No. 10 第3子出生数

- ・ 就学前の障がい児の支援
- ・ 障がい児保育の充実
- ・ 子育て支援センター 限られた時間だけ預けられるなど
- ・ 30 分でも 1 時間でもママの休息できる場所
- ・ 補助金

重要

核家族化による見守る方がいない不安

→ 無料等の気軽に預けられる施設

お金の不安

→ 補助金

グループ E

No.8 空港シャトルバス利用者数

- ・バスの本数、停留所を増やす
- ・空港へのアクセスルートを増やす
- ・途中停車ありの場合は複数ルートを用意、直行の場合は本数を増やす
- ・大きいバスにする
- ・利用数に応じて多古町で利用できる商品券や特産品プレゼント
- ・バスに乗ると町内の店舗で使えるポイントがたまる
- ・定期的に抽選のような還元できるようなものがあれば良い
- ・魅力的な観光施設を町内に増やす
- ・観光地をバスで巡るツアー ・体験型のショップを作る
- ・ショッピングモールを作る ・近隣市町村にはない良さを出していく
- ・横芝光町で導入されている自動運転バスを多古町にも
- ・多古町と空港の PR 活動を増やし、利用者増を図る

重要

バスの停留所や本数を増やす等、利便性の向上を更にはかる
バスを利用することで町民にとってプラスになる要素を取り入れる
(例 ポイントが貯まる。商品券等)
町自体の魅力度 UP↑が必要

No.9 婚姻率

- ・アスレチック等、遊べる場所を作る
- ・デートスポットを作る (例 空港の見える公園)
- ・多古町は子育て関係支援は多いが、婚活支援にもっと町が能動的に関わるべき、婚活支援が弱い
- ・結婚した家庭にお金給付 5 万とか
- ・結婚したらお金や商品がもらえる等・相談所とかあるといいかも
- ・婚活パーティを開く ・若い人向けのイベント企画
- ・出会いの場を設ける ・婚活に対する支援、イベント
- ・新婚の方が住みやすいアパート等を増やす
- ・家を増やす (安くて良い家があれば他の所から来るかも)
- ・働く場所の提供増やす
- ・住人を増やす ・親の近くに住める。

重要

多古町では子育て支援には力を入れているが、結婚のタイミングでの支援が少ない印象にある
婚活パーティや若い人向けのイベントなどの企画を町で開催するとともに、結婚相談所を設ける
町の中にデートスポットを作る。 現状 0
若い夫婦が住みたくなると思えるような物件を増やす
町の中に働ける場所を増やすことで出会いの機会を増やす

第2回 町民ワークショップまとめ

1. ワークショップの目的

- 次期計画としての「多古町総合計画」「多古町総合戦略」の検討・策定にあたって、まちづくりに参加する町民の皆さんに考えやアイデア等を発言していただく機会として、また、まちづくりに関心のある人同士の交流の機会として開催しました。
- 皆さんからいただいた意見・アイデア等は、計画策定の参考資料とさせていただくとともに、皆さんには、この機会を通じて多古町の現在と未来について考え、町民としての郷土愛や誇り、また、まちづくりへの関心をさらに高めていただくために開催しました。

2. ワークショップの概要

実施日時：令和6年10月9日（水）17：30～19：30

実施方法：多古町民や高校生、職員に集まっただき、各4～6人でチーム分けし、多古町の魅力や課題について意見を出し合い、KJ法※によりまとめていただきました。

※KJ法：カードに書き出した意見や情報などに対し、グループ分けとタイトルづけを行い、関連性を見いだすことで、意見や情報をまとめる手法。

3. ワークショップの手法

〈テーマ：総合計画で示す”まちの将来像の実現“に向けた取組を考えよう〉

1. 各チームに「多古町を取り巻く変化」を1つ振り分ける。それとは別にチームで検討する「多古町を取り巻く変化」を1つ選択する。
2. 「多古町を取り巻く変化」について多古町はどう変わっていくべきか、また、どう対応していけば将来像の実現に近づくか考える。
3. 各チームでワークショップの成果を発表する。

4. ワークショップのまとめ

今回のワークショップでは、多古町を取り巻く変化への対応策等について各チームから様々なアイデアが出ました。

5チーム中3チームが検討した「外国人住民の増加」では、言語標記や異文化教育といった、外国人観光客への対応としても重要となる意見の他、交流や相互理解に関する意見も多く出ていました。

その他にも、少子化・高齢化、東京一極集中や、成田空港の機能強化に関する意見として、町の魅力UPや施設等の拡充等を求める声が挙がった他、デジタルに関する意見としても、教育分野のICTの充実といった、高校生ならではの意見やアイデアも出ています。

グループA

No. 8 外国人住民の増加

①言語・文化の壁をなくす

- ・ お店などの商品名表記を外国人に対応
- ・ 言語問題→翻訳・日本語を勉強できる学校をつくる
- ・ 多言語を話せる人の採用
- ・ 日本語が分からない方々への対応・外国語対応
- ・ 外国人への理解を深める
- ・ 外国語表記の案内・看板作成
- ・ 外国人向けの日本語習得の講座を設ける
- ・ 異文化の交流イベントの実施（食事・フェス）

②外国人の雇用

- ・ 外国人を受け入れる就業先を増やす
- ・ 外国人の雇用促進
- ・ 住む場所・働く場所の提供
- ・ 学生用のシェアハウスを作る→農業交流深める→中には日本に住みたくなる人もいる
- ・ 外国人専用の相談窓口の開設

③外国人が暮らしやすいまちづくり

- ・ 外国人が必要とする商品が購入できる場所を設ける
- ・ 互いの文化・風習を学ぶ機会を設ける
- ・ 宗教的差異を受容する
- ・ 宗教の違い等、お互いが理解する
- ・ 言語の壁をなくす。小学校の頃から色々な言語に触れる
- ・ 日本の法律・不文律を学ぶ機会を設ける
- ・ 日本の文化やルールを理解してもらう
- ・ 外国人の暮らしを実際に体験してみても理解を深める→外国人に仮で住んでみてもらって、日本での暮らしに対するイメージをつかんでもらう
- ・ 現実的に中国・韓国企業が多古町の物件を狙っているので住民の増加より観光客を増やそう

重要

言語・文化の壁をなくす
外国人の雇用
外国人が暮らしやすいまちづくり

住民ができること

異文化交流のイベントに参加
外国人の対応先を知る
優しく対応する

No. 9 外国人観光客の増加

①言語対応

- ・ 外国語対応案内看板
- ・ 言語の壁への対応
- ・ 多言語対応できる人材の育成・増加

②交通の利便性の向上

- ・ 交通の利便性の向上

③外国人への PR

- ・ SNS の活用
- ・ メディアの露出を増やす→日本語だけでなく多言語の字幕をつける
- ・ 外国人観光客に向けた PR→ふっくらたまこのアニメをつくる
- ・ 食（美味しいもの）の PR

④観光資源の増加

- ・ 日本独自の体験を提供する
- ・ お城復元
- ・ 日本ならではの体験イベントを行う
- ・ 観光客向け農業体験→高校でやれば学生ともふれあえる
- ・ 観光施設の増加
- ・ 音楽フェス 飯田さん頑張る
- ・ ジャパニーズフードフェスの開催
- ・ 外国人が興味の沸くコンテンツ→日本の学校体験
- ・ いろいろな場所で使えるクーポンの発行
- ・ 多古町だから体験できること→農業・稲作体験等
- ・ 観光目玉を増やす→超大型ドッグリゾートの建設 八街市のドギーズアイランドの親会社ユニマットは八街市と「地方創生に関する包括連携協定」を結んでいる

⑤宿泊施設の増加

- ・ 宿泊施設の増加
- ・ 民泊できる場所の増加
- ・ 古民家リノベーション賃貸

重要

言語対応
交通の利便性の向上（成田からのアクセス）
外国人への PR
観光資源の増加
宿泊施設の増加

住民ができること

SNS を活用
民泊の提供
理解を深める

グループ B

No. 2 高齢化の進行

- ・デマンドタクシーの拡充
- ・移動スーパーの拡充
- ・若い世代と交流できる施設を増やす 介護施設と併設し交流で元気を
- ・農業などの後継者育成
- ・現役の方が技術を伝授・体験イベントなど
- ・高齢者が元気に暮らせる環境構築

重要

- ・若い世代と交流できる施設
- ・コミュニティを増やす
- ・移動スーパーの拡充
- ・移動手段の確保
- ・高齢者主体のイベントの実施

住民ができること

イベントに積極的に参加
イベントのサポート

No. 1 少子化の進行

- ・子どもの居場所
- ・親・大人が楽しめる場所
- ・子育て環境 子どもの遊び場
- ・若い世代が交流できる施設やイベントの実施 出会いの創出
- ・若い世代に刺さる場所を作る
- ・婚活イベント
- ・子育てや教育に対する助成 町民同士が子育てできる場所の増加
- ・子ども園の整備・拡充
- ・保育士の不足に対応
- ・夜間保育
- ・若い世代が住みやすい住環境を増やす 新しいアパートなど

重要

若い世代が住みやすい住環境やコミュニティづくり
子どもや子育て世代が楽しめる場所づくり
若い世代が交流できるイベントの実施

住民ができること

住民としてできること
近所付き合いしやすい雰囲気づくり
イベントに積極的に参加する

グループC

No. 1 少子化の進行

- ・ 空港で働く若いヒトへの住宅手当
- ・ 子ども園保育士の賃金増加→保育士の人員確保
- ・ 補助金
- ・ 住居の確保
- ・ 多古町民が里親になり育てる
- ・ 今ある色々な方法を使い、女性が出産できるようにする
- ・ 世界から抽選して日本人の養子になりたいか聞く
- ・ 日本人にこだわらずに多古町に住んでいる外国人も日本人枠
- ・ 子育て世帯の移住先の確保
- ・ 多古町の公園整備（遊具を増やす）
- ・ 遊び場を増やす
- ・ 子どもがいても働きやすい
- ・ 多古で若い人が働ける企業を育てる
- ・ 雇用先を増やす取組
- ・ 結婚支援
- ・ シングル親が住みやすい町
- ・ お試し移住
- ・ 情報発信
- ・ 若い人を増やす
- ・ 多古町の食材を使った料理（映えそうなもの、若者受け）
- ・ 著名人を呼んだイベント
- ・ 多古町デートスポットや有名なスポット
- ・ 人が集まる場所を増やす
- ・ お米スイーツ サツマイモスイーツ→高校生プロデュース

重要

若年層をターゲットにしたイベントを実施して交流を増やす
雇用と住居の確保

住民ができること

- ・ SNS での情報発信
- ・ 町民が主催する独自イベントの開催
- ・ 新たな名産の創出
- ・ ホームステイ
- ・ お試し移住の積極的受入
- ・ 学生の職場体験の積極的な受け入れ

No. 8 外国人住民の増加

- ・外国人に合わせて母国語表札
- ・外国語表記の増
- ・ごみ分別の説明
- ・習慣の違いを学ぶ
- ・お互いの文化や生活を理解するためのコミュニティ
- ・外国人が地域の草刈り等の参加
- ・交流イベント
- ・ゴミゼロ活動の参加
- ・文化を知る（お互いに）
- ・受け入れる環境をつくる
- ・住宅の確保
- ・学校で交流会
- ・多国語を学ぶ交流イベントを地区から提案

重要

互いの文化・習慣の理解を深める機会の創出
外国語表記を増やす

住民ができること

イベントの勧誘
あいさつ・声掛け
翻訳アプリの活用

グループ D

No. 4 デジタル化 DX 化

①教育分野での ICT の拡充

- ・教科書を分かりやすく理解できる PC などがあったら便利
- ・教育 ICT→高校にもタブレット・小、中、高プログラミング
- ・タブレットなどを支給し、教科書やノートなどをなくす
- ・海外学生などのオンライン授業をする
- ・テレワーク施設→住んでもらう

②電子申請などのオンライン

- ・電子申請の拡充
- ・住民が移動できない→公共交通・配送サービス
- ・オンラインの拡充
- ・町の施設 予約・申請（体育館等）
- ・オンライン診察 オンライン処方（行かなくてもいい）

③高齢者が DX に取り残されないように

- ・デジタルデバイド→スマホ教室
- ・高齢者が取り残されないスマホの利用（まず持つ、教室）
- ・スマホ教室
- ・住民にタブレット配付
- ・移動自治体→トラックに診療機能などを詰める
- ・LINE 等で問いが完結→シンプルにボタンなど
- ・スイッチ一つでタクシーなどが家に来てくれる（高齢者に）
- ・安否確認のデジタル化（特に災害時）
- ・TEL という手段を極力デジタルで
- ・健康教室などがオンラインで参加できると良い

重要

教育分野での ICT の拡充
電子申請などのオンライン
高齢者が DX に取り残されないように

住民ができること

電子機器の取り扱いに慣れる
ICT、実際に取り入れた後、利用者が意見を出す（高校生など）

No. 3 東京一極集中

①施設の拡充

- ・道の駅拡充
- ・オシャンなカフェ→オシャンな施設
- ・大学創る
- ・飲食&勉強ができる Cafe のような店、長時間滞在 OK
- ・コンビニ等を増やす
- ・若手が多古町に残る環境
- ・複合施設の中に有名な企業を
- ・若い人たちが住み続けたいと思える就労先や起業のヒントを見つけられる政策を計画してほしい
- ・最新のデジタルを入れた商業施設、ショッピング、食事、会社、映画、医療、公園、プール
- ・夜も楽しめる（プロジェクションマッピング）自然を活かしたモールが欲しい

②インフラの拡充

- ・ご近所のおじいさん・おばあさん“バスがやっぱりほしい”
- ・バスの本数などを増やす
- ・交通網の拡充
- ・電車欲しいよね
- ・町の街灯を増やす（森や林の近く）
- ・電波がいいところを増やす
- ・バスの本数を増やし、町外との交流を増やす
- ・町の道などに街灯を増やす

重要

施設とインフラの拡充

住民ができること

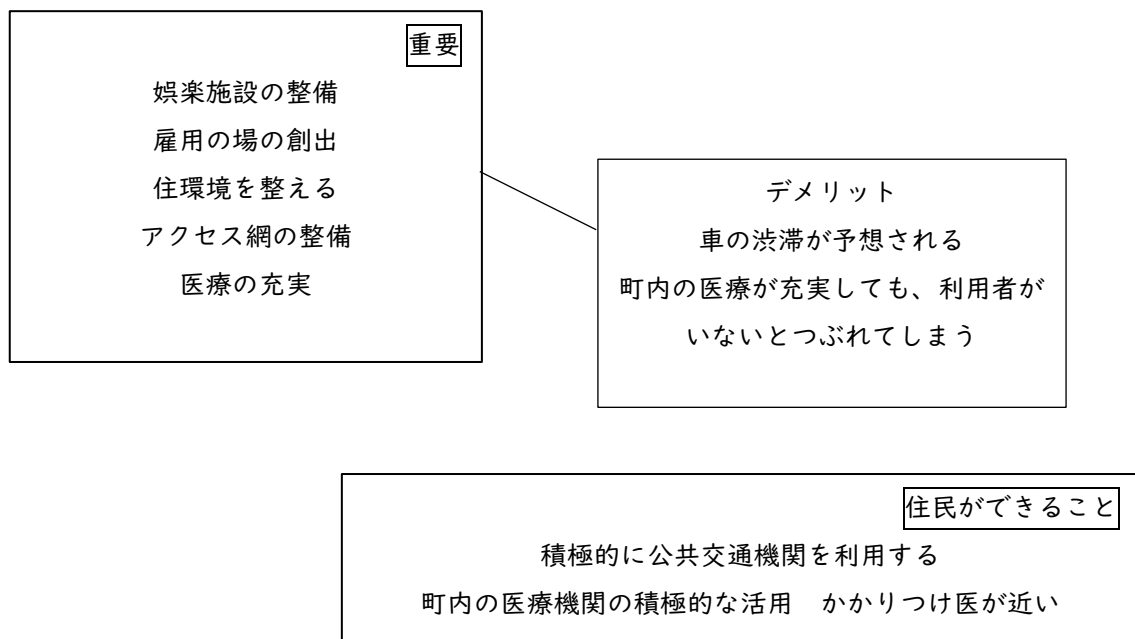
多古町の施設の利用を続ける

多古町に住み続ける

グループ E

No. 10 成田空港の機能強化

- ・ 住居を増やす（アパート）→空き家を活用
- ・ 多くの人が来て住宅を増やす
- ・ 外国人が住みやすい環境を整える
- ・ 空港の従業員が利用しやすい交通手段や住環境を整える
- ・ 街灯が少ないからほしい
- ・ 空港直通の交通網をつくる
- ・ 空港シャトルバスの他に新交通システム作る
- ・ 家や交通網を増やす
- ・ 交通機関を増やす（電車）
- ・ 空港周辺の交通アクセスをより良くする取組
- ・ 企業、社宅、寮 大企業用クリニック、単身者用ジム、保育所
- ・ 貨物関連の仕事を積極的に受け入れる
- ・ 空港が隣接する強みを活かして企業誘致に積極的に取り組む
- ・ グッドマンの施設ができる 将来的に現状の貨物施設が多古町に移転してくる
- ・ 職場を増やす
- ・ 多古町に観光スポットをつくり、外国人や観光客を呼び込む
- ・ 娯楽施設が欲しい
- ・ 新しい名産品とかあったりするとよかったりするかも
- ・ 定住人口及び交流人口の増加が見込まれるためそういったものを取り込むための取組



No. 8 外国人住民の増加

①多古町在住外国人を巻き込んだイベントを実施、交流を増やす

- ・異文化同士の交流をする
- ・町で外国人の方との交流イベントをしたりする
- ・日本人・外国人の交流を増やすための取り組み

②語学（異文化）教育の充実

- ・異文化交流し言葉の壁を改善したい
- ・小、中、高の英語教育をさらに増やす（外国人と話せる）
- ・語学を学べる施設を作る（コミュニティの場）
- ・教育施設→多古高校
- ・英語を話せる人を増やす
- ・言語の壁

③外国人が住みやすい住環境の整備

- ・外国人とともに暮らす環境整備
- ・多国語表記の看板を増やす
- ・治安が悪くなる事への対策
- ・異文化相談センター→食文化
- ・住みやすい場所を作る
- ・宗教等に配慮した飲食店を出す
- ・外国の物の飲食店を作る

住民ができること

イベントに積極的に参加する
国籍関係なく（多古町民として）関わる
外国人を積極的に雇用する
偏見を持たない